

■（１０４）記者泣かせの「離合集散」選挙へ

総選挙に向けて、政党の離合集散が激しい。できたばかりの政党が解党して、別の政党に合流する。その素早い変わり身を、「電子レンジでチン」と表現した政治家もいた。公示目前になっても、一夜明けると組み合わせや看板が変わるような状態が続いている。

選挙報道は、新聞社や記者としての視点からの記事に加え、選挙公報のような記事部分もある。後者は候補者の顔写真と、経歴・年齢・所属や支持を受ける政党などを短くまとめた略歴で構成される。公示翌日の朝刊などで、基本的には、立候補を届け出たすべての人を平等に扱う。その記事データに誤りがないかの点検作業は、選挙が始まるまでに終えなければならない。これだけ政党がめまぐるしく変化すると、内容がころころ変わり、いつまでも略歴の修正が続く。確認は際限なく、極端に言えば徹夜作業になっている。加えて各政党の政策も複雑で、それを整理して提示する記事も一筋縄ではいかない。

そのうえ「飛び込み」まで出たら……。 「飛び込み」とは、新聞社側が予期していなかった人が立候補を届けけることを指す表現で、公示当日になってからの顔写真撮影や略歴取材で、大慌てとなる。

こうした記者泣かせの選挙が、まもなく始まる。（山）